



このコーナーでは、小学校区単位(地区)でまとまって地域活動に取り組む「地域コミュニティ組織」をご紹介します。



天津地域づくり協議会

喜びと誇り やさしさと温もり そして活気あふれる郷 天津



有志のみなさん総勢300人を超す参加者で実施しています。雑木や雑草、投棄、ゴミであふれていた海岸広場も5年間の整地事業で美しく生まれ変わりました。

ふるさとの美しい海を取り戻そうと立ち上がった北部中の生徒と一緒に、天津海岸のクリーンアップ活動を始めて5年。今では校区内の小学生、

自然豊かで美しい
天津地区を目指して

活動の一部をご紹介



通行するみなさんからの応援や感謝の言葉を励みに、活動する仲間の輪を広げています。

また、校区内を東西・南北に走る県道のフラワーロード植樹帯1kmの区間に、年間を通して花を育てる植栽活動を続けています。種まきから育苗そして定植まで、生活環境部会を中心みんなで取り組んでおり、6月は毎年恒例の植栽大会を行っています。



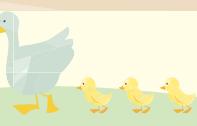
天津地区を散策してみませんか?

満開の桜の下、ウォーキング!

里の駅 双葉の里を中心に、春の桜まつり・秋の菊花展を開催し、例年多くの人が賑わいます。写真は、さくらまつり期間中の天津史跡巡り健康ウォーキングの様子。例年100人を超す参加があり、大人から子どもまで楽しんでいます。今年は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、開催時にはぜひお越しください。



問合せ/まちづくり推進課 コミュニティ係 (☎ 27-8237)



蓑虫山人 その2

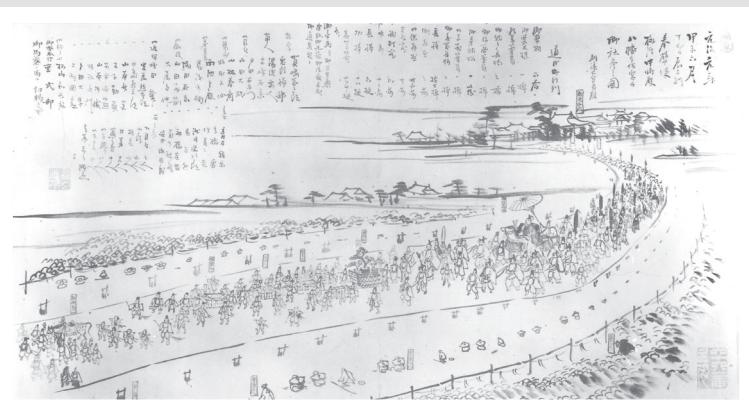
宇佐市長 是永修治



▲ 豊前国宇佐大神宮



▲ 宇佐郡名産の久々姥餅屋と名産宇佐餡図ほか



▲ 奉幣使宇佐八幡宮社参の図



▲ 奉幣使社参後の群衆参詣の図



元治元年（1864年）、明治維新の直前に宇佐を訪れた蓑虫山人は、まず宇佐神宮に参拝しています。絵日記上巻には、勅使街道から銅鳥居、吳橋、仁王門、弥勒寺、参道の商家が鳥瞰図的に描かれています。現在の弥勒寺は講堂・金堂などの遺構が確認されているのみですが、蓑虫山人の目を通して七堂伽藍の雄姿を見るることができます。上巻の絵もあり、文化元年（1804年）宇佐奉幣使、四辻左中将が松を奉納植樹したと記されています。

また、宇佐の名産として久々姥餅と宇佐餡が紹介されています。久々姥餅はあんこ入りの小さな餅で、七軒の餅屋を倍々食いすると無料になったそうです。宇佐餡は応神天皇の御乳餡として伝えられています。麦芽やもち米などで作られ、甘く栄養豊富で人気があり「竹ノ皮ニテ包ム」と記されています。

6月15日には60年ぶりの勅祭が斎行されています。絵日記下巻には約200人からなる奉幣使大行列や、ご利益にあづからうと群衆が奉幣使の清めた手洗水を目に擦り込んだりする様子が描かれています。蓑虫山人でさえ混雑にまぎれて手洗水の柄杓を頂き、有頂天で逃げ去ったと記しているぐらいです。どうも蓑虫山人は勅祭に合わせて宇佐を訪れたようです。次回は文人墨客などを紹介します。